

令和7年度 葛飾区 女性のがん検診のご案内

子宮頸がん検診 20歳から2年に1回 受診期限 令和8年2月末

裏面の「子宮頸がん検診の受け方」をご覧ください。

乳がん検診 40歳から2年に1回 受診期限 視触診 令和8年1月末
マンモグラフィ検査 3月中旬

対象の方は、同封の「乳がん検診の受け方」をご覧ください。
(お申し込みのない方や、対象外の方には同封していません)

※ 年齢は、現年度末年齢です

実施医療機関一覧表 (受診内容から医療機関を選んでください)

内 容	医 療 機 関	所 在 地	電 話	生 保	予約について 必要：予約が必要 可：予約が可能 不要：予約が不要
子宮頸がん検診	ととおたけ産婦人科	立石6-34-11	03-3691-0858		必要 HP
	綾瀬産婦人科・産後ケア	小菅4-8-10	03-3838-8151		可 電話・HP
	亀有メディカルクリニック	亀有3-26-1 6F	03-6231-2905	○	必要 電話
	亀有公園前診療所	亀有5-34-12 4F	03-3606-2532	○	可 電話・HP
	中村医院	新小岩2-35-4	03-3654-9237		不要
	東京かつしか赤十字母子医療センター	新宿3-7-1	03-5876-3511 (代表)	○	必要 専用アプリ
乳がん 視触診	増田産婦人科	東金町1-13-5	03-3607-1519		可 HP
	平成立石ペンギンクリニック	立石5-7-3	03-3693-3131	○	必要 電話
	亀有みんなのクリニック	亀有2-4-8	03-5650-2821	○	不要
	亀有おおの診療所	亀有2-33-8	03-6662-2655	○	可 電話
	ゆりあファミリークリニック	亀有3-27-27	03-3601-3131	○	必要 はなしょうぶ
	亀有病院	亀有3-36-3	03-3601-0187	○	不要
	新小岩北口診療所	西新小岩1-8-4 1F	03-5670-2826	○	可 電話
	イムス東京葛飾総合病院	西新小岩4-18-1	03-5670-9901	○	必要 電話
	小泉胃腸肛門乳腺クリニック	金町6-4-3 1F	03-3627-1300	○	可 電話
	第一病院	東金町4-2-10	03-3607-0007	○	必要 電話
子宮・乳 両方	小沼医院	東水元2-10-2	03-3607-4008	○	必要 電話
	東京フェリシアレディースクリニック	立石8-9-6	03-3691-9931		必要 HP
	宮川産婦人科	東四つ木4-49-10	03-3694-1020	○	不要
	佐久間レディース&ファミリークリニック	堀切2-54-16	03-3691-0371	○	不要
	木下産婦人科医院	東堀切1-15-10	03-3602-7201		可 HP
	マリアレディースクリニック	青戸3-39-9 2F	03-3601-1676		必要 HP
	土屋クリニック	高砂8-25-1	03-3607-2203	○	不要
	雨宮医院	柴又1-43-11	03-3600-3511	○	不要
一方だけでも受診できます	金町中央病院	金町1-9-1	03-3607-2001	○	必要 電話

◆生活保護受給中の方は、「生保」の欄に「○」のある医療機関でご受診ください。

◆子宮頸がん検診と乳がん視触診は、予約が必要な場合は直接医療機関に予約して受診してください。

(HP=医療機関のホームページ)

マンモグラフィ検査については「乳がん検診の受け方」をご覧ください。

◆葛飾区に住民登録のある方が対象です。

医療保険の種類に関わらず受診できますが、お勤め先などで同様の検診を受診する機会のある方は対象外です。

◆具体的な症状が出ている場合は、がん検診ではなく医療機関の診療を受けましょう。

予告なく検診内容等を変更する場合があります。最新の情報は葛飾区ホームページでご確認ください。

葛飾区 がん検診



【担当課】葛飾区健康部(保健所)健康推進課 〒125-0062 青戸 4-15-14 ☎03-3602-1268

子宮頸がん検診の受け方

受診票は、受診対象の場合に同封しています。

検診の目的

子宮頸がんは、子宮の入口「頸部」にできるがんで、主に性交渉によるHPV感染が原因です。日本の女性では罹患する人が多く、20歳代後半から増加し、30～50歳代で多くなります。初期の段階では、ほとんどが無症状のため、検診による早期発見が大切です。

不正出血がある場合（月経（生理）以外に出血がある、閉経したのに出血があるなど）や、月経が不規則などの症状がある場合には、子宮頸がん以外の病気の可能性もあるので、検診ではなく、すぐに医療機関を受診してください。

検 診 内 容 問診・視診・細胞診※1）・内診 費 用 無料

持 ち 物 (1)令和7年度子宮頸がん検診受診票(太枠内記入)

(2)マイナ保険証等(診察券がある方は診察券も)

受 診 場 所 実施医療機関一覧表「子宮頸がん検診」「子宮・乳両方」の医療機関

受診時の注意 (1)生理中および生理直後の数日間は受診しないでください。

(2)前日に入浴しても膣内は洗わないでください。

(3)受診の2～3日前から性生活はさけてください。

結果について (1)検査の結果は約2週間後に、検診医療機関でお伝えします。その際はマイナ保険証等をお持ちください。結果は、「精密検査不要」「要精密検査」のいずれかでお知らせします。

(2)検診の結果、さらに精密な検査が必要な方には、検診医療機関が精密検査実施医療機関をご紹介します。必ず精密検査※2を受けてください(保険診療)。

(3)精密検査の結果は検診医療機関に報告してください。

そ の 他 検診外の検査は、検診費用（保険診療外）が別途必要となります。

不正出血があったり、ご心配な症状がある場合は、検査担当医にご相談ください。(保険診療)

※1 細胞診による子宮頸がん検診は、子宮頸がんの死亡率・罹患率を減少させる効果があります。

※2 精密検査(子宮)：コルポスコープ(拡大鏡)下の組織診や細胞診、HPV検査などを組み合わせたものです。(保険診療)

コルポスコープ検査と組織診検査→コルポスコープを使用し、異常が疑われる部位の組織を採取して診断します。

細胞診検査→細胞診を半年ごと(異常がなければ3回、1.5年)に検査します。コルポスコープと組織診を同時に行う場合もあります。

HPV検査→子宮頸部から細胞を採取し、HPVに感染しているかどうか調べます。

○がん検診で必ず「がん」を発見できるわけではありません(偽陰性)。また、「がん」がないにもかかわらず検診で「陽性」判定が出る場合もあります(偽陽性)。

○がん検診の結果が「要精密検査」となった場合は必ず精密検査を受け、結果を検診医療機関にご報告ください。

○精密検査結果は、区へ報告され、また、検診医療機関以外で精密検査を受診した場合は、検診医療機関にもその結果が共有されます。

乳がんになる人は、30歳代から増え、50歳代までの働き盛りの世代に多くみられますが、早期発見・治療により90%以上の人が治るといわれています。

ブレスト・アウェアネス(乳房健康チェック)のすすめ 一乳房を意識して生活する習慣一

乳房の状態に日頃から関心を持つことにより、乳房の変化に気づきやすくなります。

①ご自分の乳房の状態を知る(見て、触って、感じる：乳房チェック)

⇒②早く乳房の変化(しこり、皮膚の凹みや血性の乳頭分泌など)に気づく

⇒③乳房の変化に気づいたら、すぐ医師へ相談する⇒④40歳からは2年に1度、乳がん検診を受ける

乳房を見て、触って、感じるという気軽な気持ちで生活習慣に取り入れましょう

乳がん検診受診対象ではない39歳以下の方には、子宮頸がん検診受診時にご案内しています